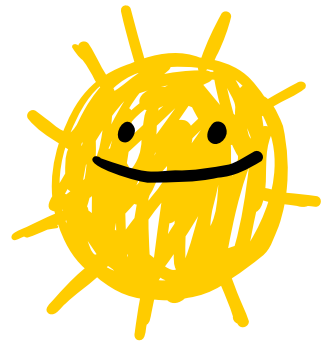




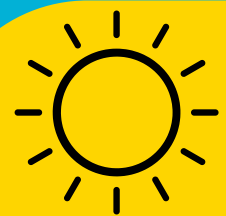
感染対策室ニュース

大阪南医療センター 2026年6月29日発行



発熱＝感染症ではない

熱中症は感染対策の盲点になる
夏の2大リスクを同時に防ぐ！

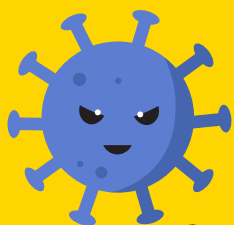


熱中症になると感染しやすくなる

- ・脱水により乾燥すると体のバリア機能が低下する
(ウイルスを防ぐ力が弱くなる)
- ・体力低下で免疫が落ちる
- ・冷房中も換気を忘れずに(ウイルスを外に排出)



冷房は 室温28℃以下・湿度60%以下 1時間に5～10分の換気



感染症があると熱中症になりやすい

- ・発熱、下痢、嘔吐で脱水が進む

高齢者・術後患者の脱水早期発見

- ・食欲低下で水分・塩分不足
- ・マスク着用で体温が上がりやすい

7月是一年で最も熱中症が増える時期です。
特に高齢者はのどの渇きを感じにくく、気づかないうちに脱水が進むことがあります。湿度が高く、室温が高くなっても熱中症のリスクが上がりやすい時期です。



「脱水は感染症の入り口」
こまめな水分補給・換気・休養で涼しく
安全な夏を過ごしましょう

